

第 3 回早島町振興計画審議会

資料編

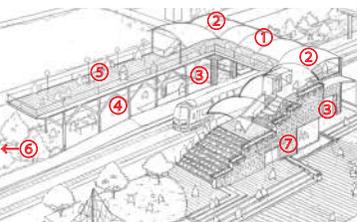
(改訂第 4 次早島町総合計画より抜粋)

平成 42 年に向けた施策展開のイメージは以下のとおりです。

時期	施策展開のイメージ
平成 27～32 年度 (第 4 次総合計画・後期基本計画)	サービス水準とイメージの向上による転出抑制に努めつつ、人口 13,500 人を念頭においた基盤整備の準備と制度設計を進めます。
平成 33～37 年度 (第 5 次総合計画・前期基本計画)	都市基盤の整備と各種制度の展開を進めつつ、次期総合計画において新しいまちの枠組みを検討・提示します。
平成 38～42 年度 (第 5 次総合計画・後期基本計画)	整備された都市基盤への人口定着を図りつつ、次期総合計画の都市像の実現、新しい課題への対応を進めます。

《事業の概要》

- ① 南北自由通路（屋根付）の設置
- ② 南エレベータ及び北エレベータの設置
- ③ 駅南口の開設・駅北口の移設
- ④ 屋根付き広場の設置
- ⑤ 空中テラスの設置
- ⑥ 南口月極駐車場の設置
- ⑦ 待合室・買い物支援施設の設置



《事業によるストック効果》

- 公共交通の利用促進
- 公共交通結節点機能の強化
- 駅周辺の活性化
- 定住・移住人口の増加
- 観光客・来訪者の増加
- 産業・観光振興
- 町の玄関口のイメージアップ
- 地域の魅力・早島町のブランド発信
- CO2削減・環境にやさしいまちづくり

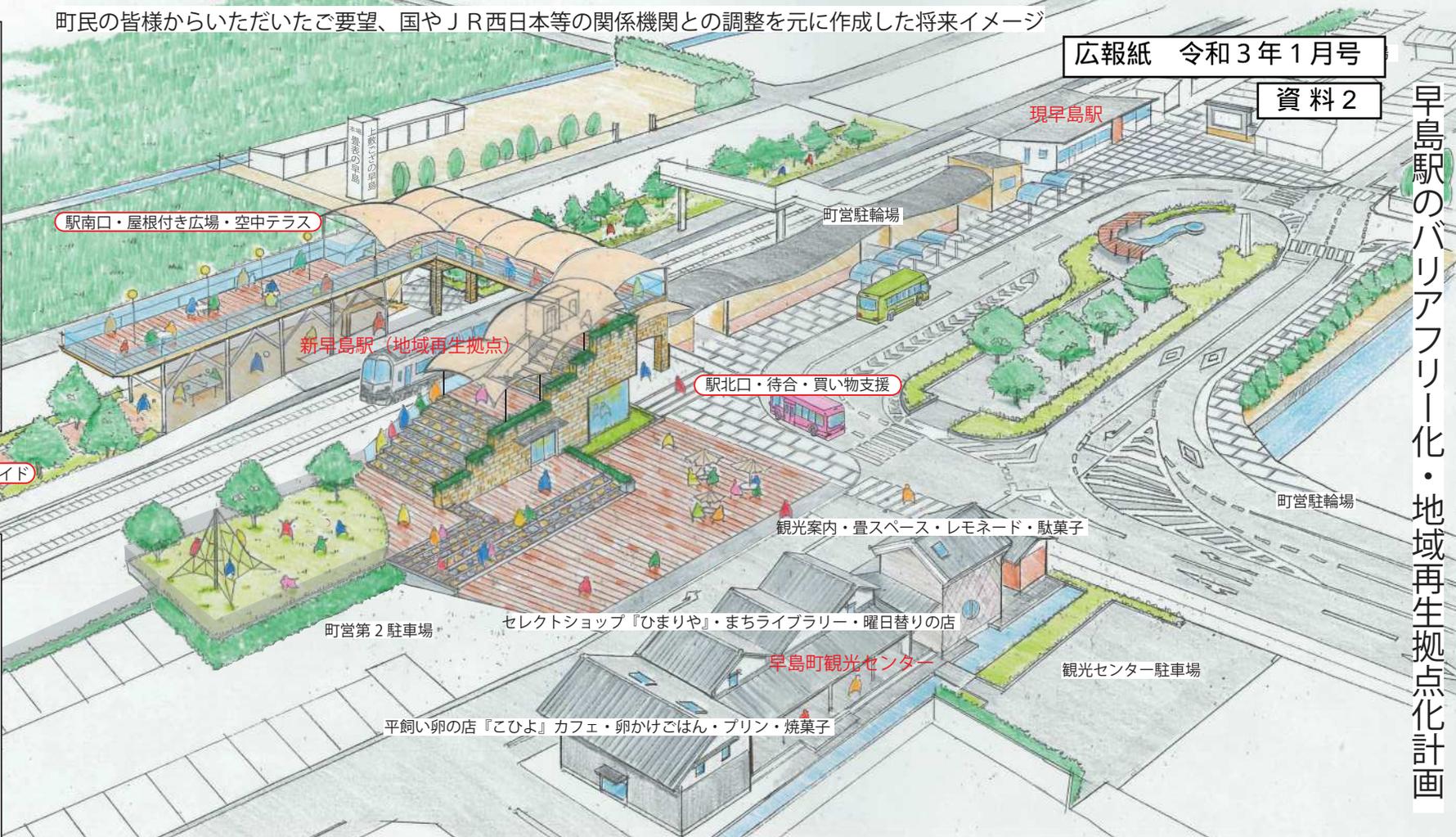
【担当部署】

総務課整備計画室（長坂・渡辺）
TEL 086-482-0611

【ご意見・ご要望】

事業の実施に関するご意見やご要望がございましたら、早島町ホームページの「お問い合わせ」欄よりご意見・ご提案もしくは、役場1階の「投書箱」にお寄せください。

町民の皆様からいただいたご要望、国やJR西日本等の関係機関との調整を元に作成した将来イメージ



広報紙 令和3年1月号
資料2

早島駅のバリアフリー化・地域再生拠点化計画

【お知らせ】早島駅周辺の測量・地質調査を開始します。

長年多くの町民の方から切実なご要望をいただいていた、早島駅のバリアフリー化実現に向け前進します。

『国の方針』
令和2年7月、国土交通省はバリアフリー法に基づく基本方針の令和3年度からの5カ年目標について、中間とりまとめをおこない、一日当たりの乗降客が3000人未満の鉄道駅について、地域の主体的な取り組みにより対象施設を拡大し、地方部を含めた更なるバリアフリー化を進めることと発表しました。

『早島町の方針』
町としても、鉄道とコミュニティバス及びタクシーといった、公共交通の結節点である早島駅のバリアフリー化は、誰もが車に頼らず、歩いて暮らせるまちの実現のために不可欠な事業であり、また、単なるバリアフリー（段差の解消として南・北にスロープを設置するに留まらず、誰もが使いやすいユニバーサルデザインの実現に向けて、南北にエレベーターの設置と屋根付き跨線橋を設置することが理想的と考えております。

『財政負担』
将来的な財政負担を考慮し、南北自由通路としてのエレベーター2基及び屋根付き跨線橋の整備と一体的に、住民交流や買い物支援施設を併設し、町の地域再生拠点として位置づけ、国の地方創生拠点整備交付金（工事費の半額補助など）や企業版ふるさと納税をはじめとした、様々な財政支援を受けられる計画とし、国やJR西日本等の関係機関と協議を進めています。

『将来性』
新設する南口駐車場、貸し店舗、増設する北口第二駐車場により収益増を実現。
また、指定管理者制度を導入した観光センターや町内循環コミュニティバスの利便性向上など、複数の施策において投資に見合う成果を確保していきます。

『事業計画』
本年度から測量・地質調査を開始し、順次、基本設計・実施設計、土地購入、JR西日本との工事協定締結を進めます。

事業費（設計前概算・土地購入含む）	
事業費総額	約 13.6 億円
〔国補助等〕	約 6.8 億円

今後の事業計画（注）	
1～3年目	測量・地質調査・設計
4年目	土地購入・協定締結
5～6年目	工事・完成

注：実施時期については、新型コロナウイルス感染拡大等の未確定要素により変更を余儀なくされる場合もあります。

まち歩きで

健康づくり × 観光の仕組みづくり

- ①まち歩きと暮らしと住まいをテーマにした民間運営の地元情報誌刊行
- ②万歩計や携帯アプリで歩行数をカウントすることで、歩行数に応じた特典を飲食店等で受けられる仕組みづくり及び協賛店募集



地元情報誌イメージ



ザイルクライミングイメージ

- ③早島公園の頂上からの景色を楽しむザイルクライミング設置
- ④山川池親水公園の水辺の景色を楽しむザイルクライミング設置
- ⑤ふれあいの森公園の指定管理者制度導入に向けた駐車場ゲート設置

注：本事業はウイズコロナの新しい生活スタイル、マイクロツーリズム（地域内観光）の考えに沿った事業ですが、合わせて感染防止の取り組みを行ってまいります。



【内閣総理大臣認定 早島町地域再生計画】

歩いて暮らせる魅力あるまちづくり

「早島駅・いかしの舎・ふれあいの森公園をはじめとする、まち歩き拠点のPR及び魅力UP事業」

『地域再生計画とは』

地域経済の活性化、地域における雇用機会の創出といった地域活力の再生を総合的かつ効果的に推進するため、国の支援を得ながら町が自主的、自立的な取り組みを進めるものです。

地域再生計画に認定された事業には、国からソフト事業で100%、ハード事業で35%の財政支援が受けられます。

それに加えて企業版ふるさと納税（寄付金）を受け入れて財源とすることも可能となります。

事業には具体的な数値目標を設定し、効果検証を行い、個々の事業で儲かる仕組みを作ること、将来は交付金に頼らずに自立できることが求められています。

『歩いて暮らせる魅力あるまちづくり』

公共交通の結節点である早島駅が名実ともに地域再生の拠点となるためには、バリアフリー化（1月号でお知らせ）と併せて運行本数を将来にわたって確保することが不可欠です。このため、観光による来町者の増加を目指し、早島町が「歩いて暮らせる魅力あるまち」であるとPRするソフト事業と、公共交通で来町しなくなるまち歩き拠点の魅力UPを行うハード事業を一体的に進めます。

来町者を増やすことで、「早島駅」の乗降客の増加と、まち歩きの拠点「いかしの舎」の売り上げ増加を、ひいては町を賑やかにし、町内の不動産に新たな価値をつけ、空き家バンクへの物件登録数増加を目標とする事業で、令和2年度（令和6年度（5カ年））に実施予定です。

『令和3年度予定事業』

令和3年度は、令和2年度事業で実施した仕組づくりが生かせるよう、まち歩き拠点を活用したイベントの実施、まち歩き及びまち歩き拠点のPR（広告宣伝）ふれあいの森公園キャンプ場の魅力UP事業を予定しております。



まち歩きイベント（案）『早島シネマ』
まち歩きとの連動企画として、令和3年度夏ごろから、月一回、ゆるびの舎のホールにて名作映画の上映を予定。

『早島在住をステータスに』

休日は近隣の大型商業施設で過ごすという方も、町内で過ごすという選択肢を加えていただけるよう、町の魅力を高め、まち歩き拠点をはじめとする飲食店や小売店等、町全体での経済活動を盛んにすることで、自信をもって早島在住と言えるまちづくりを進めます。

【事業統括】

総合政策監・理事（長坂）

TEL 086-482-0611

公衆無線LANサービスをご利用ください

町では、ゆるびの舎や中央公民館など主な公共施設に公衆無線LANを整備しています。



利用可能時間

施設が開館している時間内で、最大30分×8回/日

利用可能施設

- ・ 早島町役場・ゆるびの舎
- ・ 中央公民館・さつき荘・いぶき荘
- ・ 西コミュニティセンター
- ・ いかしの舎・観光センター
- ・ 地域福祉センター(オアシス早島)

・ 早島幼稚園・早島小学校体育館

・ 早島中学校体育館

・ 県立早島支援学校体育館

利用について

ご利用は無料です。利用にあたっては、メールアドレスまたはSNSアカウントが必要です。

詳しくはホームページ等から利用案内をご覧ください。



問 まちづくり企画課

(☎086・482・0612)

岡山連携中枢都市圏2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言共同発表



※宣言した8市5町とは…早島町、岡山市、津山市、玉野市、総社市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、真庭市、和気町、久米南町、美咲町、吉備中央町

「二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指します
岡山連携中枢都市圏で宣言

近年、日本各地で地球温暖化による気候変動が一因とみられる豪雨や猛暑などの異常気象による災害が発生し、甚大な被害をもたらしています。このまま地球温暖化が進行すれば気候危機のリスクはさらに高まる

おそれがあります。こうした危機的な状況に向き合い、豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくために、この度、岡山市や早島町など岡山連携中枢都市圏を形成する8市5町が、2050年までに二酸化炭素排出量

実質ゼロを目指すことを共同で宣言しました。2月2日に開催された岡山都市圏連携協議会において宣言されたもので、地球温暖化対策に連携して取り組んでいきます。

早島町二酸化炭素実質ゼロ宣言

世界中が地球温暖化による危機的な状況にあります。

SDGsの目標13では、気候変動に具体的な対策を打つことを課題として明示しています。

早島町においては、地球温暖化対策の一環として、これまでに省エネルギー対策、再生可能エネルギーの導入に取り組みました。公共施設への太陽光発電の設置、照明器具のLED化、高効率空調設備等への切り換え、防犯灯のLED化などを実施しました。現在は、個人の住宅にスマートエネルギー設備等の設置を促進するための補助を行っています。また、フードドライブを活用した、資源の有効利用、廃却ごみの削減を始めたところです。

先日、私は大変嬉しい経験をしました。幼稚園、小・中学生の子どもたちが学習活動の成果を発表し、町政に提言する子ども議会場で、多くの子どもがSDGsについて学び、町や地球規模での地球温暖化、環境問題について自ら考えたことを生き生きと発表してくれました。とても頼もしく思うとともに、この子どもたちと共に早島町の良い環境を残していかなければならないとの思いを強くしました。

早島町は、町民の皆様が、住んでいてよかったと思えるまちづくりを行っており、地球温暖化対策をさらに推進し、「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す」ことを宣言いたします。

令和3年2月2日

早島町長

中川真寿男

